

【OIE 情報】スペインにおける牛海綿状脳症（BSE）の発生について

スペインにおける牛海綿状脳症（BSE）（非定型、L型）の発生について、OIEへ緊急報告がありましたのでお知らせいたします。

なお、同国からの牛、めん羊及び山羊並びにこれらの動物由来の肉製品等については、現在輸入停止中です。

また、スペインが獲得している「無視できるBSEリスク」ステータスに変更はありません。

出典：OIEウェブサイト（2017年3月10日付け）

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=23176

（OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。）

【概要】

- ・発生数：1件（緊急報告・終報）
- ・発生日：2017年2月22日
- ・OIEへの報告日：2017年3月10日

【発生状況】

- ・カスティーリャ・イ・レオン州 サラマンカ県の農場

【動物種】	【感受性動物数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
牛	1	134	0	1	0

- ・陽性事例は1頭。3頭のコホートが生存、調査実施中。

【疫学情報】

- ・感染源：不明または調査中
- ・2017年2月23日に、アルヘテの中央獣医研究所（すべての伝達性海綿状脳症の診断検査のためにUNE-EN ISO / IEC 17025 : 2005の下で認可されたTSEの国立リファレンス試験所）は、カスティーリャ地方認定動物衛生研究所より、Bio-Rad TeSeE SAPを用いた迅速診断の結果陽性を示した牛の脳幹検体を受領した
- ・国立リファレンス試験所は、EU規則No. 1148/2014に従って認可された確定診断（Idex HerdChek BSE /スクレイピー抗原検査キット及びウェスタンブロット（Prionics））を実施した
- ・BSEと確定した後、国立リファレンス研究所で、イムノブロットングにより、BSEの型を同定するための検査を実施、2017年3月1日に非定型L型BSEであると判明した
- ・当該検体は、国家TSEサーベイランスプログラム（48か月齢超の死亡または食用にと畜されなかった牛のサンプリング）により採取された
- ・この牛は2003年1月12日生まれの雌の交雑種であった

【対応】

- ・国内における移動制限
- ・施設等の消毒
- ・トレーサビリティ
- ・死体、副産物及び廃棄物の公的処分
- ・部分淘汰
- ・ワクチン接種禁止
- ・患畜を治療対象としない
- ・動物製品の公的廃棄（予定）

【診断】

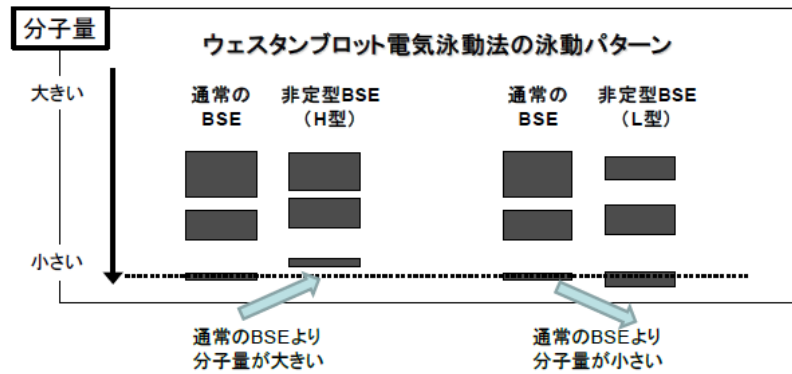
- ・診断施設：アルヘテ中央獣医研究所（国立研究所）
- ・診断方法：ウエスタンブロット：陽性（2017年2月27日）
電気免疫泳動ブロットアッセイ（EITB）：陽性（2017年3月1日）

【参考1】発生地図



【参考 2】非定型BSEとは

- ・ ウェスタンブロット法によるBSEの確定診断の結果（電気泳動像）が、従来のBSEとは異なるパターンを示すBSE症例が、2003年以降、各国で確認されており、非定型BSEと呼ばれている。



出典: Dr James Hope, Centre for Epidemiology and Risk Analysis, Veterinary Laboratory Agency Lasswade, UK

- ・ 非定型BSEは、従来のBSEと比較して世界でも確認されている症例数は少ないが、食品安全委員会によると日本の一例を除き、ほとんどの非定型BSEは、8歳を超える高齢牛で確認されており、年齢の幅は6.3~18歳と報告されている。
- ・ 食品安全委員会によると、現時点では非定型BSEの起源は明らかになっていない。EUでは汚染された飼料による可能性を排除することはできないとする一方で、フランスでの非定型BSEの発生頭数の分布から、これまでの定型BSE（通常のBSE）とは異なり特定の出生年との関連が認められていないため、孤発型（原因不明で発症するもの）のプリオン病との解釈も示されている。